

(様式2)

校 種	小 ・ ☒ 中 どちらかに○	学校番号	1 0	学校名	宇都宮市立清原中学校
-----	--	------	-----	-----	------------

令和2年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・各学年、各教科ともに市の平均を下回るかほぼ同等であり、努力を要する結果である。
- ・国語科では「書く能力」、数学では「数学的な見方や考え方」で市の平均を超え、筋道を立てて説明する力が付いてきている。
- ・社会科では「社会的事象の知識・理解」が市の平均を2.8ポイント下回り、基礎的・基本的な知識・理解の確実な習得が必要である。
- ・理科では「粒子」の領域は市の平均と同等だったが、他の領域は2ポイント下回る結果となった。
- ・英語科では「聞くこと」は市の平均と同等、「読むこと」は県の平均と同等だったが、「書くこと」は2ポイント以上下回る結果となった。多様な学習形態の工夫、小集団での話し合い活動が必要である。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活に役立つと思う。」と解答した生徒の割合は90%を超えており、学ぶ意欲が高い。
- ・「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」という質問で、前年度は65.0%だったが、今年度は75.4%と10.4ポイントアップした。しかし、市の平均とは12.0ポイントの開きがある。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動を良く行っている。」と答えた生徒の割合も県の平均を12.1ポイント下回った。全職員が「目標」と「まとめ」を板書するとともに、生徒の言葉で振り返りをさせることが必須である。
- ・「家で、学校の授業の復習・予習をしている。」「テストで間違えた問題について勉強している。」生徒の割合は県の平均を上回った。テストの際に、各教科ごとに間違った問題をやり直す指導をし、学校全体で自主学習ノートの点検をしてきた結果である。

(3) 授業等への取組状況から

- ・授業中、落ち着いた態度で課題に取り組み、集中して学習に臨んでいる生徒が多い。
- ・積極的に自分の考えを発言したり、グループ学習等でお互いに教え合ったりすることがあまりできない生徒が多い。また、自分と相手の意見を比べながら聞き、自分の考えを深めていこうという主体的な取組をしている生徒も少ない。
- ・基礎・基本的な学習には意欲的に取り組むが、筋道を立てて考える問題になると途中で諦めてしまう生徒が多い。

2 今年度の重点目標

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と根気強く学習に取り組む生徒の育成

(2) 学習に自主的・主体的に取り組む、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 基礎・基本の徹底を図るための指導法の研究

○学習の3つの決まり、「チャイム着席」、「きちんと起立・礼」、「指名されたらハイ」の徹底を図る。（通年）

○「話の聞き方、発表の仕方、ノートの取り方」など基本的な学習態度や技能の徹底を図る。（通年）

・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため、指導内容の精選を図る。(通年)

★ICTを活用し、分かりやすい授業を展開する。(通年)

□意欲的に取り組めるような課題や宿題の提示及び自主的な学習の進め方の定着を図る。(通年)

★単元や学期ごとにまとめる学習時間を確保し、身に付けるべき基礎・基本を確実に定着させる。

・数学科および英語科においては、T・Tや習熟度別学習の効果的な指導法を工夫する。(通年)

(2) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善とOJT

★「学習内容定着度調査」や「学習と生活についてのアンケート」の効果的な活用を図るために、全職員で分析に当たる。(8月, 2月)

★□授業づくりの重点目標を『主体的・対話的で深い学びに向けた授業』として、学年ごとに時期を決めて、一人一授業公開を実施する。実施後、授業の改善点や指導方法などについて教科部会でアドバイスし合い、報告書にまとめる。(7月, 9月, 11月)

★□全教員が「宇都宮モデル」を活用した授業実践に取り組む。(通年)

① 生徒が課題意識を高め、解決の見通しがもてるような課題提示を工夫する。

② 「書く」活動と「説明」「話し合い」などの活動を適切に取り入れる。

③ 何ができるようになったのか等自分の学びを振り返る時間を確実に位置付ける。

□各教科・領域での要請訪問を計画的に実施する。(今年度は音楽とカリキュラム・マネジメント)

その際、音楽では『主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善』、カリキュラム・マネジメントでは、育成を目指す資質能力を課題発見・解決能力とし、教科等横断的な視点に立った総合的な学習の時間での校内研修を実施する。

(3) 家庭学習の強化

★「自主学習ノート」と適切な課題、スタンダードダイアリーの活用により、1年生は1.5時間、2年生は2時間、3年生は2.5時間以上の家庭学習を習慣付ける。(通年)

・定期テスト終了後にアドバイスシートを作成し、テストの振り返りと基礎の定着に活用させる。

□「清原学習ガイド」を配布し、家庭学習の進め方を指導する。(4月)

(4) 読書活動の充実

・日課表に位置付けた「朝の10分間読書」に取り組ませ、読書の習慣付けを図る。(通年)

・読書週間の実施(11月)

・「図書だより」での読書推進の啓蒙と魅力ある学校図書館づくりを目指す。(通年)

(5) 小中学校間の連携による学習指導の充実

・相互乗り入れ授業や部会研修会などを通して教科の課題について意見交換し、指導方法について協議する。

・系統的な指導を目指した小学校・中学校における国語科、算数・数学科、外国語活動・英語科、道徳の研究授業・授業研究会を実施する。(7月, 9月, 10月, 12月)

(6) 支援を要する生徒に対する配慮体制の強化

・授業中の意図的指名などで、授業に参加できていると感じさせ自己有用感をもたせる。(通年)

・適応支援教室では、遅れがちな生徒の特性を理解し、配慮をしながら支援に当たるよう工夫する。(通年)

□不登校生徒に対しては、保護者に対し校内サポート体制を説明し、重荷にならないよう配慮しながらテストや課題を可能な限り提供し、家庭での学習の取組を評価に生かす。(通年)

(7) 家庭・地域との連携・協力

・保護者会や学級懇談会において、学習・生活についての情報を提供する。(4, 9, 3月)

・「学校・学年・学級だより」、「学校HP」などを定期的かつ継続的に発行することを通して学校生活に関する情報を提供する。(通年)

